

評価技術に関連した 食品健康影響評価の課題と 今後の進め方（イメージ）

分野ごとの食品健康影響評価の特質と 評価技術の観点からの課題のイメージ（粗い整理※）

※実際の評価は分野ごとに特質があり大きく異なるが、あえて2つに大別して粗く整理

	申請をきっかけとしない評価	企業等の申請をきっかけとした評価
分野	汚染物質等、PFAS、微生物・ウイルス、プリオン、かび毒・自然毒、アレルギー	添加物、農薬、動物用医薬品、器具・容器包装、遺伝子組換え、新開発食品、肥料・飼料等
評価の特質	● 公表文献を収集し、知見の信頼性・使用可能性・外挿性等をエキスパートジャッジしながら評価を実施	● 申請者が提出した標準化（質と量）されたデータをもとにして、標準化された評価を実施 ・試験の種類：[評価指針に基づくデータパッケージ] ・試験の方法：OECDテストガイドライン等 ・試験の信頼性：GLP基準等
課題のイメージ	● データ不足を補完する新たな評価手法への期待 ● 追加の動物試験の実施が困難 [農薬の再評価における代謝物の評価、器具・容器包装における既存物質の評価] ● 新たな観点からの毒性評価の発達への対応 [発達神経毒性、免疫毒性、腸内細菌叢への影響等] ● アニマルウェルフェアを背景とした動物試験の削減の潮流	● 既存の試験成績を活用した精緻化への期待

課題と解決につながりうる評価技術の例のイメージ

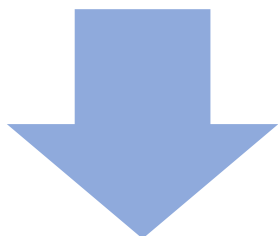
課題	評価技術（試験方法・評価方法等）の例
● データ不足を補完する新たな評価手法への期待	（※評価技術のほかに政策的な充実が重要） ・ in vitro試験法、in silico評価法等の動物実験代替法の開発・活用
● 追加の動物試験の実施が困難 [農薬の再評価における代謝物の評価、器具・容器包装における既存物質の評価]	・ (Q)SARの活用 ・ リードアクロスの活用 など
● 既存の試験成績を活用した精緻化への期待	・ ベンチマークドーズ（BMD）法の活用等の既存データの再解析
● 新たな観点からの毒性評価の発達への対応 [発達神経毒性、免疫毒性、腸内細菌叢への影響等]	・ 健康影響発現経路に基づいた試験 ・ 評価系の開発（統合的アプローチを含む） ・ ヒトへの外挿性の研究 ・ in vitro試験法の開発・活用 など
● アニマルウェルフェアを背景とした動物試験の削減の潮流	in vitro試験法、in silico評価法等の動物実験代替法の開発・活用

➡健康影響評価の実際の課題と「新たな評価技術」の関係性を明確化したい

新しい評価技術へのスタンス・進め方

新たな評価技術の台頭

BMD法、(Q)SARの指針・手引きを策定済み



• 体制整備＋運用の充実
【事務局＋WG】

※各調査会等への参画

• 技術的検証【研究】

※各研究班と連携

- BMD関係 松本班
- (Q)SAR関係 古濱班
- リードアクロス関係 山田班

分野ごとの食品健康影響評価における現状と課題の把握・整理【調査】

- 専門調査会等座長、関係機関にヒアリング
 - （並行して）海外機関等の情報収集・整理
- ➡ヒアリングの際に資料を提示



現状の課題と新しい評価手法のマッチング（新しい評価手法を必要とする場面と、利用可能な評価技術を整理）【調査→WG→委員会】